



アドボケート (advocate) とは、障害者の権利を支援・擁護・代弁する人という意味。この企画では、当事者が自ら、自分のことばで、今の生活についての思いを発信します。今回は2021年2月11日に行われた「世界ダウン症の日キックオフイベント」での本人発表から、原稿全文をご紹介します。

働く・奏でる・地域で生きる

兵庫県 多田 駿介



こんにちは、多田駿介です。兵庫県に住んでいる24歳です。

ぼくは、特別養護老人ホームで介護職として働いてちょうど2年になります。

体操をしたり、飲み物やお食事の準備をしたり、食べにくい利用者さんの食べるお手伝いをします。時々は車イスのお手伝いもします。

就職したころは時々しんどくなることもありましたが、今はそんなことはなく元気に仕事をしています。職場の先輩たちもとても親切なので毎日が楽しいです。できる仕事も少しずつ増えてきました。新しい仕事を覚えるのは楽しいです。

仕事は楽しいとしんどくなりません。

食事をお持ちすると「ありがとうね」と言ってくださることが毎日とても嬉しいです。「ありがとう」と言っていただくと「またがんばろう！」という気持ちになります。

お給料をいただくと貯金をしたり、おばあちゃんに生活費を渡します。いつか自分の車を買いたくて貯金しています。これからも元気に仕事を続けていきたいと思っています。

朝の声掛け活動

お休みの日には、朝小学生の通学路に立って、「おはようございます」の声掛けと横断歩道の見守りをしています。

ぼくは挨拶をするのが好きなので、小学生に大きな声で「おはようございます」と声をかけます。小学生が「おはようございます」と言ってくれると嬉しいし、気持ちがいいです。

小学校の先生や地域の人「卒業生ボランティア」とか「おはようのお兄ちゃん」と呼んでくれます。

大学に行く！神戸大学

「学ぶ楽しみ発見プログラム」



昨年と今年、神戸大学に行きました。

仕事が終わってからなので、疲れていることもありましたが、一日も休まずに通いました。

難しい勉強もありましたが、メンターさんがサポートしてくれたので、楽しく勉強できました。

知らないことを教えてもらうのは嬉しかったし、

知ってることは手を挙げて発表したりしました。

1年目は勉強が難しいと元気がなくなりましたが、

2年目は難しい勉強もしっかり聴くようにし

ました。仲間と一緒にご飯を食べたり、体育館でスポーツをしたことも楽しかったです。

また来年も行けたらいいな、と思っています。

車の運転

18歳で運転免許をとりました。

小さい頃から車が大好きだったので自分で運転できるのはとても嬉しいです。おばあちゃんはお年寄りなので、運転ができなくなったら買い物やお医者さんにいくときにはばくが運転して乗せてあげたいです。なので、運転を忘れないように休みの日には運転をしています。この間、免許の更新があって、ゴールド免許になりました。

いつか自分の車を買いたいです。マリンバを積めるワゴン車を買いたいです。

特技はマリンバ演奏

特技はマリンバ演奏です。10歳の時に習い始めました。

地域の行事や保育園・幼稚園、高齢者施設で演奏しています。仲間と一緒にコンサートもします。

2年前にはオーストラリアで演奏しました。

練習はちょっとしんどいと思う時もありますが、拍手をいただくと嬉しくなって、もっとがんばろうと思います。

聴いてくださるかたが、優しい気持ちや楽しい気持ちになるような演奏をしたいです。マリンバは車に積んでどこにでも行けるので呼んでもらったらいろんなところに演奏に行きたいです。



自分の出来ることをして、人の役に立てたらいいな。ずっと自分の町で暮らしたいな。

これからもいろんなことに挑戦して、自分の出来ることで人の役に立ちたいです。

そして、育った町でこれからもずっと暮らしていきたいと思っています。

そんな気持ちを込めて演奏します。

「ふるさと」お聴きください。

母・多田 千景さんより

このたびはキックオフイベントでの発表の機会をいただき、ありがとうございます。日々、まだまだ子ども、と思いながら育てていたら、気がついたら24歳にもなっていました。発表する3人のなかで一番年長と言われ、びっくりしたくらいです。

駿介は自分の発音が不明瞭なことはよくわかっているのですが、意識してはっきり話そうとしていました。その様子に「聴いてもらいたい、伝えたい」という意思を感じました。このような機会をいただくことで彼なりに成長していることに気づくことができ、とても嬉しく思っています。

駿介自身はZoomを使って多くの人に見てもらおうということが「ボク、かっこいい!」と思ったようで、とても誇らしそうで、嬉しそうでした。

その後、FacebookやInstagramでたくさんの方から、「働けるようになるんですね。」「運転免許を取ってもいいんですね」というメッセージをいただきました。

今まで先輩方の背中を見て、先輩方が拓げてくれた道を歩いて育ってきた駿介ですが、気が付けばその背中を見ている小さい子どもたちがいることに気づきました。駿介がダウン症で生まれてきたことに彼なりの役割があるのだと思いました。今回、キックオフイベントに登壇させていただいたことで、これからそんな役割を果たしていければ、いかなければ、と思いました。

◎多田さんのホームページ◎

Happy Mallet 多田駿介 - ダウン症のマリンバ奏者 -
<https://www.happymallet.com>